

開会の辞

広島大学 国際交流担当副学長の丸山恭司と申します。学長の越智光夫があいにく米国出張のため、今回出席ができません。学長からは、講師の先生方、そしてご参加くださった皆さまに、くれぐれもよろしくお伝えするようにと承っております。

広島大学を代表致しまして、一言ご挨拶をさせていただきます。本日は、ご多忙の折、当シンポジウム「復興と平和構築」にご参加頂きまして、誠に有難うございます。また、講師の先生方には、ご多忙の中、広島にお越しくださいまして、心より御礼申し上げます。

基調講演には、アメリカ UCLA テラサキ日本研究センター所長、芸術・建築学部教授、阿部仁史先生にお越し頂きました。阿部先生は、日本を代表する建築家でありますとともに、東日本大震災後の復興にもご尽力されている先生であります。講師の先生としては、高麗大学の平和と民主主義研究所長の朴鴻圭（パク・ホンキュ）先生、そして、EU 欧州対外行動庁特別顧問のケイト・フィアロン（Kate Fearon）先生、このお三方にご登壇頂きます。3名の先生方には、このシンポジウムのために過密なスケジュールを調整頂き、海外からお越し頂きました。本当に有難うございます。また、本学学長特命補佐、西田恒夫先生にもご発表頂きます。

本日のシンポジウムでは、破壊された社会をどのように復興し、平和で民主的な国家をどう維持していくのかという問題提起に対しまして、豊かな経験と知見をお持ちの登壇される先生方に、さまざまな角度からお話をしていただけるものと大いに期待しております。

本学は、2014 年、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業におきまして、世界大学

ランキングトップ 100 を目指す大学として認められ、採択されました。平和を希求する精神に基づいて、知を創造し、人間性を培い、国際社会に貢献する総合研究大学として、人類の課題解決に資する人材育成に取り組むと同時に、研究力強化・教育力強化にも力を入れてまいります。

また、本年の4月には、新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research)PLAN 2017」を策定し、平和実現の責務を果たす大学の長期ビジョンを作成、反映致しました。これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジする新しい平和科学の理念、すなわち「持続可能な発展を導く科学」を展開し、「100年後にも世界で光り輝く大学」として責務を果たす所存でおります。

本シンポジウムを主催します平和科学研究センターには、川野徳幸センター長を中心に、その担い手として大いに期待しているところであります。「ヒロシマ」の理念を基盤とした原爆・被ばくに関する研究、同時に平和構築などの分野における平和研究に特に力を入れて頂きまして、広島での平和、日本の平和研究を牽引してもらいたいと思っております。

改めまして、本日のご参加を心から歓迎致しますとともに、本日のシンポジウムが実り多きものとなりますよう、皆さまのご協力をお願いしまして、開会のあいさつに代えさせていただきます。どうも有難うございました。

広島大学 国際交流担当副学長
丸山 恭司